



目 次

山口大学学術機関リポジトリ構築事業の開始・1	トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
図書館セミナー 2005・・・・・・・・・・4	本学関係教官寄贈著作物・・・・・・・・8
山口大学学術情報機構シンポジウム 2005・・5	

山口大学学術機関リポジトリ構築事業の開始

山口大学学術情報部長 **大場 高志**

1. 機関リポジトリとは

山口大学図書館では、今年度から国立情報学研究所 (NII) が行う「最先端学術情報基盤構築事業—学術情報発信支援（機関リポジトリ連携・支援）」の委託業務に参画し、山口大学学術機関リポジトリの構築を開始します。機関リポジトリ (Institutional Repository) とは「大学及び研究機関で生産された電子的な知的生産物を捕捉し、保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫」です。

山口大学の論文生産数は、国内の科学技術文献データベース（科学技術振興機構の JDream）には、2004 年の 1 年間に約 1500 件、全学術分野の学術論文データベース（国立情報学研究所の CiNii）には約 900 件の論文の書誌情報が収録されています。海外の学術論文データベースである SCOPUS (Elsevier 社) や Web of Science (Thomson Scientific 社) には約 700 から 800 件の書誌情報が収録されています（図 1）。これら山口大学の教育研究活動の成果として公開される学術論文等を、ネットワーク上の電子的

な流通手法を用いて収集、保存し、学内外へ広く発信・提供していくことが大きな目的です。

既に、公刊され、流布されるのだから、何故いまさらと考えられる方もいるかと思えます。欧米では、論文数の急激な増加を背景に商業出版社が刊行する学術雑誌の予約購読価格が異常に高騰するという現象が起き、そのため研究者や大学図書館が購読予約をキャンセルせざるを得ない「学術雑誌の危機」 (Serials Crisis) が訪れました。同時に、大学の教育研究活動の

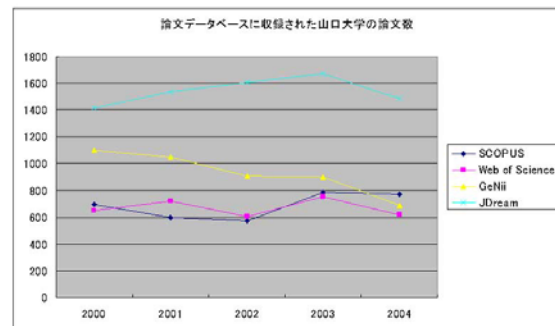


図 1 論文データベースに収録された山口大学の論文数

うち特にSTM (Science, Technology, Medicine) の分野では、研究活動がインターネット上の情報流通によって行われるようになり、電子ジャーナルという流通形態が普及してきました。日本の論文生産数は米国に次いで世界第2位の数を数えますが、その多くは海外の学術商業出版社に投稿され、大学は逼迫した財政状況の中で、高額な電子ジャーナルを買い戻すという学術コミュニケーションの悪循環に陥っています。このような状況に対抗し、研究者の生産物は研究者自身の手に取り戻し、自ら管理するという考えをもとに、リポジトリという発想が生まれました。機関リポジトリは、学術機関が生産する学術情報は自ら管理していくという理念をもって構築されるものです。日本では年間6万件以上の論文を生産していますが、多くの主要論文は海外出版社に投稿され、日本の大学図書館は年間約300億円を支出して買い戻しているといわれています。機関リポジトリは、このような学術コミュニケーションの不適合を正し、学術流通における主導権を研究者の手に取り戻すという変革運動でもあり、海外では500以上の主要大学で機関リポジトリの構築が行われています(表1)。

2. 山口大学の機関リポジトリ構築事業

山口大学では、国立情報学研究所の機関リポジトリ連携・支援をうけ、マルチメディア統合検索システムを導入しました。このシステム上に、まず工学部研究報告と医学部の“The Bulletin of the Yamaguchi Medical School”の論文を電子的媒体として収集し、メタデータ(論文の目録データ)を作成し、山口大学機関リポジトリから発信するとともに、国立情報学研究所のメタデータ・データベースにも登録を行い、世界中の機関リポジトリとの連携を実現します(図2)。なお、これらの作業は、当面図書館が行うこととしますが、研究者の生産物である論文の電子的収集、保存及び公衆発信は、電子的情報に関する著作権処理という現代的な

	システム数	コンテンツ数	平均
米国	155	645411	4164
英国	66	97551	1478
ドイツ	55	67744	1232
カナダ	32	26895	840
ブラジル	30	80360	2679
フランス	26	76163	2929
スウェーデン	24	22595	941
イタリア	21	10914	520
オーストラリア	19	60487	3184
オランダ	17	313004	18412
インド	14	4590	328
スペイン	12	62995	5250
ベルギー	9	4222	469
デンマーク	7	5301	757
日本	6	83122	13854
中国	5	14051	2810
メキシコ	5	125227	25045
フィンランド	4	13188	3297
ポルトガル	4	3654	914
スイス	4	84525	21131
ハンガリー	4	1817	454
南アフリカ	4	350	88
チリ	3	407	136
オーストリア	3	2081	694
コロンビア	3	2354	785
ノルウェー	3	894	298
その他	34	1219925	35880
計	569	3029827	5325

'05. 1. 15 時点

“InstitutionalArchivesRegistry”(http://archives.eprints.org)

登録データより

表1 各国の機関リポジトリ数

課題に挑戦することでもあり、大学教員のご協力をよろしくお願いいたします。

また、山口大学には論文以外にも教育研究活動の成果として有用な教育教材や「デジタル山口大学」などの広報資料、教育研究活動そのものを示す研究者ホームページなどの情報資源が数多くあります。法人化後の山口大学の活動を社会に向けて総合的にネットワーク発信する意味からも、これらの情報資源についても積極的に収集したいと考えています。その際にも、著作権許諾等のご協力をよろしくお願いいたします。

参考文献

(1)尾城孝一、杉田茂樹、阿蘇品治夫、加藤晃一
「日本における学術機関リポジトリ構築の試み；千葉大学と国立情報学研究所の事例を中心にして」、『情報の科学と技術』54(9)、情報科学技術協会、p475～482(2004. 9)；

http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/joho/infosta_ir.pdf

(2)土屋俊「学術情報流通の最近の動向」、『現代の図書館』42(1)、日本図書館協会、pp. 3-30(2004. 9)；

http://cogsci.l.chiba-u.ac.jp/~tutiya/Publications/pdf/04_01gen

dai.pdf

(おおば たかし)

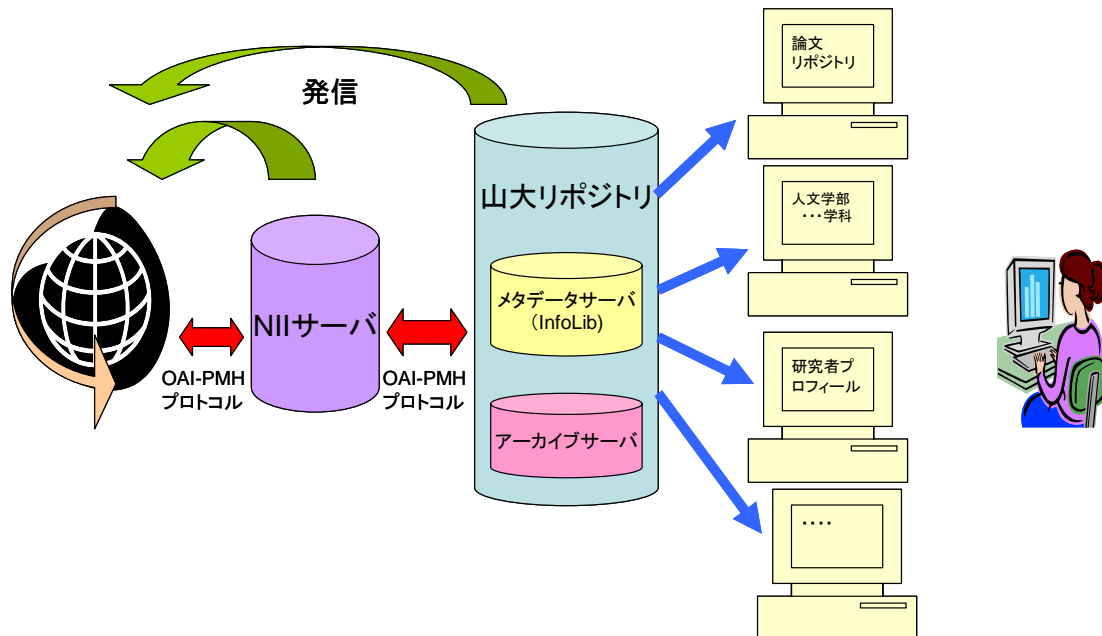


図 2. 機関リポジトリの全体像

図書館セミナー2005

平成17年9月15日(木)「日本の電子ジャーナルの現況 - 学術コミュニケーションの今日: SPARC/JAPANの挑戦」というテーマで、「山口大学図書館セミナー2005」を開催しました。

電子ジャーナルは、今日、教育研究活動に不可欠なものとなっていますが、その一方で、急激な価格高騰や、学術論文の国外流出など、様々な問題が生じています。本セミナーでは、その現状と対策に



ついて、学内外から招いた4名の講師による講演が行われました。

(1) 日本の学術コミュニケーションの現状

安達 淳 (国立情報学研究所開発・事業部長)

日本国内で生産された学術論文の約80%が、海外雑誌への投稿、国内学術雑誌編集の海外出版社への委託等により海外に流出し、それを国内に莫大な金額で買戻している現状、及びその原因分析(国内学術雑誌の国際的知名度の低さ、電子ジャーナル対応の遅れ等)、また、その対策として国立情報学研究所が中心になり進めているプロジェクト、特にSPARCについての講演がありました。

(2) SPARC/JAPANの活動と課題

細川聖二 (国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課学術コミュニケーション係長)

SPARC/JAPANが現在進めている、日本国内の学術雑誌支援事業(国際化支援、電子ジャーナル化支援、大学図書館への販売支援)やその成果、及び今後の課題についての講演がありました。

(3) UniBio Press—Zoological Science 学会誌ジャーナルの挑戦

永井裕子 (SPARC/JAPAN 推進室室員・日本動物学会事務局長)

日本国内の生物系学術雑誌の電子ジャーナルパッケージ、UniBio Press 誕生までの背景、現状、及び今後についての講演がありました。

(4) 山口大学の現状と課題

大場高志 (山口大学学術情報部長)

山口大学における電子ジャーナルの購読、利用状況、山口大学が発信する学術情報の現況、及びその課題と方向性についての講演がありました。

本セミナーは、吉田地区(山口市)のSCS教室で開催され、小串、常盤地区にも同時配信されました。参加者は学内外から74名でした。

なお、当時の講演につきましては、図書館のホームページより動画配信しております。

<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~lib/seminar2005/index.html>



山口大学学術情報機構シンポジウム2005

平成17年12月8日(木)、山口大学大会館において、「法人化後の大学における学術情報流通基盤—あらたなコミュニケーションを求めて—」というテーマで、本学学術情報機構主催による標記シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは、各大学の課題の取り組みの現状と今後の展望等が報告され、学内外から招いた3名の講師による講演の後、講師に加え糸長雅弘教授(本学埋蔵文化財資料館長)と浜本義彦教授



(本学メディア基盤センター長)の5名によるパネルディスカッションが行われました。

(1) 山口大学学術情報機構の現在

福政修教授(本学学術情報担当副学長、学術情報機構長)

本学学術情報機構の概要、学術情報機構を構成する、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館の3つの組織のそれぞれの現状と課題についての講演がありました。

(2) 京都大学情報環境機構の目指すもの

松山隆司教授(京都大学情報環境機構長)

情報ネットワーク社会と実世界との統合という21世紀の課題、京都大学の情報関連組織の概

要、京都大学で行っている学術情報の整備についての講演がありました。

(3) 法人化後の大学図書館の学術情報基盤整備について

伊藤義人教授(名古屋大学附属図書館長)

各大学が学術情報基盤整備を行う場合、一大学による基盤整備の限界及びコンソーシアムの形成等による大学間の連携の必要性、今後の課題についての講演がありました。

(4) パネルディスカッション

各講演の補足説明と共に、活発な意見交換が行われました。特に、機関リポジトリの在り方については、「大学の成果物等を発信することはオープンアクセスとも関連し是非推進の必要がある」、「インターネット上に不必要な情報は発信するべきではない」などの様々な意見が交わされました。

当日は、学内外の教職員、大学院生等合わせて115名の参加があり、活発な質疑応答も含め会場が一体となった大変意義あるシンポジウムとなりました。

なお、シンポジウムの詳細な内容は、図書館または学術情報機構のホームページからご覧下さい。

<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~lib/sympo2005/index.html>



トピックス

●常設展示「山口市街の探訪」

7月11日から、総合図書館1階展示コーナーにおいて、平成17年度第1回常設展示「山口市街の探訪—山口高等商業学校卒業アルバムに見る今昔—」を開始しました。今年、山口大学経済学部が山口高等商業学校の開校から数えて創立100周年を迎えるのにあたり、高商時代のアルバムに残っている当時の山口市街の写真と現在の街並みの写真とを比較し、山口市街の100年間の変遷をパネルや年表で紹介しています。



●インターンシップ実施

本学インターンシップ実施事業の一環として、9月5日～9日の間、本学学生2名を実習生として受け入れました。この事業は学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度で、初日の全体オリエンテーションに続き、図書館業務の実習を5日間行い、盛りだくさんの業務を体験して頂きました。

受け入れる図書館側も実習生も初めてのことで、当初とまどいもありましたが、5日間があっという間に経ち、実習生の感想からもっと体験したいので日数を延ばして欲しいとの要望もあり、その熱心さと意欲が窺え、来年に向かって実施プログラムを充実し、さらに受け入れ態勢を整えていきたいと考えています。

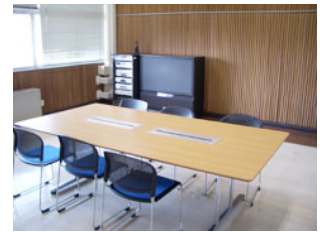
●フレッシュ・パーソン・セミナー

9月9日、広島大学中央図書館において、平成16年度4月1日以降に採用された図書館職員を対

象に、第1回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナーが開催されました。本学からは笹本情報ナビゲーション係員と野間情報ナビゲーション係員が参加し、5名の講師による図書館員としての基本的知識の習得に視点を置いた講義を受講しました。講師の一人として、本学の吉光情報ナビゲーション係長が情報リテラシー活動についての講義を行いました。また、図書館員同士の交流の場として、昼食を取りながらテーブルディスカッションをするという新しい試みがなされました。

●グループ学習室・学習個室の整備

総合図書館では、10月3日（月）より、新たな学習施設として、グループ学習室を2室、学習個室を4室増設しました。グループ学習室では、各室で10人前後の利用が可能であり、間の仕切りを取れば、20人程度の利用も可能になります。ゼミ等の授業にも使えますので、どうぞご利用ください。また、グループ学習室には空調設備も完備していますので、快適に学習利用することができます。



学習個室については、空室であれば自由に利用することが可能です。グループ学習室の利用に関しては、カウンターで手続きが必要になります

ますので、利用申請書に記入のうえ、カウンターで申し込み下さい。事前の利用予約も可能ですので、どうぞご利用ください。

●山口県図書館振興県民のつどい

10月29日（土）、山口県立図書館において、「第7回図書館振興県民のつどい」が開催されました。山口大学図書館は、山口県大学図書館協議会として参加し、「自宅でする大学図書館サービス」をテーマに山口大学デジタル絵図、山口県

内図書館横断検索の紹介等、インターネットを使った大学図書館サービスの紹介と各大学の広報パンフレット等の配布を行いました。



●オープンライブラリー2005

11月5日(土)、姫山祭と併せて、学術情報機構2005オープンライブラリーを開催しました。7月から行っていた企画展示、「山口市の探訪」に「新山口市の誕生」も加えた山口市街の100年の変遷をパネルやパズル等で紹介しました。来場者イベントとしてクイズラリーを行い、参加者には名刺などの記念品を渡し、学生や家族連れも多く約520名の来館で賑やかな会場となりました。



●教育学部附属養護学校実習生受入

本年度より養護学校の学生に幅広い職域経験の提供と本法人の誰もが快適に就労できる職場環境づくりを目指して11月24日～12月8日の間教育学部附属養護学校の学生3名を大学で受け入れました。その内の1名が総合図書館で実習を行いました。実習内容は、受入図書の装備、カウンターでの貸出・返却、図書資料の配架・配架直し等でした。

受け入れる側としても初めてのことであり、実習前はかなり不安もありましたが、業務への関心も高く、熱心に実習に取り組み無事終了することができました。

今後このような実習生を受け入れるにはもっと効率的な実施プログラムが必要であることを反省させられましたが、その後養護学校での実習生による実習発表会において、将来図書館に就労したい旨の発言もあり、実習生・職員双方に非常に有意義な体験であったことを認識しました。

講 習 会

●SciFinder Scholar 2006 講習会

10月19日、吉田・常盤の2キャンパスで、化学情報データベース・SciFinder Scholar 2006の講習会を開催しました。当日は化学情報協会より講師を招き、SciFinder Scholarの概要、基本的な検索の流れや機能の説明、及び演習が合計90分間にわたって行われました。2006にバージョンアップされたことから関心度が高く、41名の参加がありました。



●電子ジャーナル講習会（工学部）

11月14日から17日までの4日間、工学部図書館において、電子ジャーナル講習会を開催しました。一コース90分間で計6回、参加者数は計31名でした。対象は4年生から、大学院生、教職員。内容は、まず電子ジャーナルの背景の説明、次に実習として、Science Direct、SpringerLink、Wiley InterScienceの三つのシステムそれぞれで論文検索とアラート登録、最後に機関リポジトリについて紹介しました。



JCR 講習会

11月18日、吉田・常盤・小串キャンパスの3会場で、JCRの講習会を行いました。JCRはJournal Citation Reportsの略で、雑誌評価指数であるインパクトファクターを調べるためのツールです。当日はトムソンサイエンティフィック社から講師を招き、90分間にわたって「インパクトファクターを読む・Journal Citation Reportsにみる農学・工学・医学関連雑誌動向」と題して講習が行われました。参加者は31名でした。



JDream 講習会

平成17年11月21日と22日の2日間にわたり、JDreamの講習会を行いました。21日は小串キャンパス、22日は吉田・常盤キャンパスでそれぞれ開催されました。科学技術振興機構から招かれた講師により、科学技術・医学・薬学等の文献検索データベースであるJDreamの概要と利用方法のほか、平成18年度より実施される新サービス・JDreamIIについての説明がありました。参加者は34名でした。



本学関係教官著作物寄贈図書

寄贈者	書名
池園 宏 ・ 宮原 一成(人文学部)	ブッカー・リーダー：現代英国・英連邦小説を読む / 福岡現代英国小説談話会編
添田 建治郎(人文学部)	愉快的な日本語講座
山根 和明(経済学部)	TOEIC テスト最短最速攻略テク
澤 喜司郎(経済学部)	中国の驕り：中国覇権主義による日本侵略
瀧 厚(人文学部)	文民統制：自衛隊はどこへ行くのか
中内 伸光(理学部)	じっくり学ぶ曲線と曲面：微分幾何学初歩
山本 八千代(医学部)	ドメスティック・バイオレンス：被害女性ケアマニュアル
乾 秀行(人文学部)	21世紀後半の世界の言語はどうなるのか：情報化・国際化のなかの言語
藤原 マリ子(教育学部)	『おくのほそ道』の本文研究：古典教育の視座から
山田 守(農学部)	Survival and Death in Bacteria 2005
田頭 昭二(理学部)	分析化学：検出・濃縮・分離法

編集後記

今号は学内成果の情報発信としてのリポジトリについての巻頭となりました。まだ緒についたばかりですが、結果を出して行きたいと考えています。また今年にはトピックスにも載っているように

様々な行事が行われてきました。リポジトリを始めとして全て行事は学内皆様方のご協力をなくしては達成できません。今後ともよろしく願います。